

中国語検定に挑戦!!

文学部2年 川口 舞

私は一年生の秋に中国語検定準四級と四級の二つを受験しました。大学に入学して、はじめて中国語に出会いその面白さの虜になりました。授業も一番楽しみにしていたし、一生懸命に取り組んでいました。そんな中、先生のお声掛けもあって、学習の目標として検定試験の受験を決意しました。最初は準四級のみを受験するつもりでした。中国語検定四級は、目安として第二外国語で一年間履修程度のレベルであり、半年しか勉強していない私には未学習部分もありました。ギリギリまで悩みましたが、中国語に対する熱い気持ちから二つの受験を決意しました。

しかし決意したものの、残された時間は一か月あまりしかなく、検定対策問題集を一冊仕上げる時間ありません。私は中国語の先生の協力もあって、準四級、四級それぞれ過去十年分以上の過去問だけに集中して取り組みました。過去問をひたすらに解いていくうちに分かってきますが、中検はとって出題傾向が分かりやすいです。聞かれることは大体決まっています、毎回のように同じような問題が出ます。なので、どれだけ中国語が出来ても、どれだけ一生懸命勉強しても、ポイントを押さえることができないと点数は伸びません。数をこなすと自分の苦手な点も明確になってくるので、私はそれをポストイットに記入して部屋や手帳に貼り付けて常に意識するようにしていました。

リスニングについては、まだ自らの声調も安定しておらず、耳も慣れていなかったので毎日聴く必要がありました。毎日決まった時間を確保するためにLL視聴室での学習を心がけ

ました。LL教室には過去何十年分の過去問があり、視聴室ではCDを聴くことができます。平日は19時までやっていて沢山の過去問で練習することができました。私がやったことは本当に単純でとにかく沢山の過去問を解いて、リスニング問題は毎日取り組み、自分自身で傾向、パターン、ペースを体得するとういうことのみです。

検定は自分の励みになり、やる気を高めてくれます。皆さんもチャレンジしてみてください。



ロシア語検定試験に挑戦

経済学部 清水 伸子

現在、日本で受験できるロシア語検定試験は(通訳ガイド試験を除いて)東京ロシア語学院のロシア語検定試験とТРКИ(「外国人のためのロシア語検定試験」)の二種類ありますが、文法・語彙に関する試験内容の手堅さと、過去問が入手可能、受験の手軽さ(各都道府県にある日本ユーラシア協会を受験可能)から言って、東京ロシア語学院のロシア語検定試験受験をお勧めします。

各級のレベルについて

このロシア語検定試験は、4級から1級までのレベルに分かれています。4級と3級が初級文法事項を確認するレベル(3級には、一部中級文法の内容が含まれます)、2級以上が中・上級文法事項を確認するレベルとなっています。

愛知大学語学教育研究室の奨励金申請対象は4級以上ですし、大学2年生までの授業内容は

だいたい4級3級の試験内容に対応していますので、ここからは4級と3級試験に向けた勉強の仕方を紹介していきます。

4級試験と3級試験

4級と3級試験は、文法確認、露文和訳、ロシア語作文、そして朗読(4級。アクセント記号つきテキスト)あるいは聞き取り(3級)の4つに分かれています。

<発音と文法事項>

発音に関しては、キリル文字は大体書いてある通りに発音すればよいので、語末の有声子音の無声化と、後続子音に合わせての無声化(あるいは有声化)、Ч・Т・Оの発音を押えておけば大丈夫でしょう。

文法では、日本語の助詞(てにをは)が果たす役割を担う格の用法とその変化の暗記が初級文法での必須事項です。4級は、格変化に関しては選択式で出題されますので、形容詞の格変化がうろ覚えでも、名詞の格変化さえしっかり覚えていれば正解できます。名詞の変化の暗記が大変という人は、まず-硬子音、-o、-aで終わる名詞の格変化から覚えましょう。この3種類の語尾で終わる名詞は他の語尾で終わる名詞に比べてかなり多いので、練習問題にも本番の試験にも大変有用です。そして、とにかく6格の基本的な用法を特にしっかり暗記しましょう。前置詞に関しては、4級3級は文法問題で出題されるものが大体決まっていますので、過去2年分の問題から拾っておけば十分だと思います。

動詞に関しては現在・過去・未来の3時制を聞く4級に対して、3級は命令形、運動・移動動詞の活用変化と用法の理解が問われます。100ページ程度の薄い教科書しか手元に無い人は、運動・移動動詞だけは詳しい参考書で練習問題をこなしてから、過去問をやってみたほう

が良いかもしれません。また、3級に挑戦する人は動詞の命令形を押さえておくほうが良いと思います。

<語彙>

4級の試験の語彙は500語レベル、3級は1000語レベルとされていますが、過去問をやりながら単語カードを作っていけばよいでしょう。4級は、ざっと目を通せるぐらいの薄い初級文法だけの教科書で使われている単語でほぼ8割がカバーできます。

3級挑戦者は、4級の語彙に曜日・月名・数詞・比較表現などが加わります。

ロシア語検定試験では、自分のことをテーマとするテキスト和訳や作文が出題されます。身の回りにあるもの(たとえば「机」、「鏡」)に、ロシア語の単語を書いて貼っておくと覚えるのも楽しくなります。試してみましょう。

<和訳とロシア語作文>

和訳にロシア語作文!?絶対無理!と敷居が高そうな気がしますが、基本的には4級3級の和訳、作文、朗読文、聞き取り本文も、その内容が日常生活の様子に関するもの、例えば、私(あるいは友人の)のある1日の過ごし方とか、私(あるいは家族、友人)の紹介(趣味・仕事など)といったものです。ロシアでは、外国語を学習する時に、文法学習と同じぐらい音声による会話学習も重視する伝統があり、東京ロシア語学院の検定試験もそれを踏襲しています。4級のロシア語検定試験に朗読という音声面をみる試験が入っている理由もここにあります。文法を十分に知らないうちから会話表現を学習をするわけですから、自然とそのテーマは「私」の日常や、友人・家族のことに絞られてくるわけです。

インターネットで言語の検定試験マニアが、『「好き」とか「欲しい」といった不規則変化動詞や所有構文も、まず「私」が主語のときの形を覚えておくべし』とロシア語4級体験談を書

いていましたが、なるほどと思いました。基本単語は不規則活用をするものが少なくありません。活用は全ての形を一度に覚えられれば面倒はないのですが、どうしても覚えにくい場合には、まずは会話に出てきやすい「私」と「君」に対応する形を覚えると和訳や作文、朗読は攻略しやすいと思います。

文法説明とともに会話文も載せている教科書というと分厚いものになりがちです。この分厚い教科書をやりきらないと4級の試験を受けられないと思うと、せっかくの意欲がしぼんでしまいそうです。ですから、そういう本で勉強することはお勧めしません。4級や3級の過去問2～3回分を丁寧に勉強すればほぼ対応できます。作文や和訳に恐れなくて下さい。

<朗読>

最後に、朗読の攻略法です。

英語はアクセントのある音節を高く上げる傾向がありますが、ロシア語は逆です。また、平叙文や疑問文のイントネーションは英語と全く違いますので、テキスト付属のCDなどで発音練習する必要があります。NHK講座はテキストが少し短すぎて検定試験攻略には直結しないように思いますが、朗読についても検定試験過去問についている3級の聞き取り問題の音声CDを使って発音練習すると良いでしょう。

ロシア語検定試験はとにかく過去問数回分をやってみることが何よりの近道です。ロシア語検定試験過去問は解答とともに大学で利用することができます。名古屋校舎ではメディアゾーンに、豊橋校舎ではLL自習室の検定試験問題をおいてある棚がありますので、ぜひ利用してください。

ハンゲルの各種検定について

国際コミュニケーション学部 片 茂永

近年、韓国文化への関心が高まる中、ハンゲル勉強に挑戦する人々が年々増えています。それ自体はとても微笑ましいことではありますが、しかしそれが1回きりの好奇心に終わらないためには、検定試験に合格しておくのもいい方法かと思います。とはいってもハンゲルを勉強してから挑戦できる検定試験には一体どういう種類のものがあるかよく分からないと答える学生が多かったので、その種類や受験方法についてご紹介したいと思います。

一つ目は、韓国語能力試験です。これは韓国の教育部が外国人に対する韓国語教育を目的に開発し実施する検定試験です。級別は、1級から2級(初級)、3級・4級(中級)、5級・6級(上級)となっていますが、通常の級と逆に難易度が設定されていますので注意が必要です。級別レベルですが、1級は基本文型と基礎語彙1,000語程度を用いた短い文を読み、理解し、簡単な挨拶、慣用的な表現が可能な程度を要求します。

2級は平易な韓国語を話し、読み、書きができ、基本語彙を1,500～3,000語程度用いた文章を理解、簡単な対話が可能な程度です。3級は日常生活において語彙に不便がなく、よく使われる言葉、文章をゆっくり聴けば充分理解でき、短い文で意思伝達が可能な程度。そして4級は、日常言語の使用は充分可能で、電話での問題処理も可能、一般文章の構造はほとんど理解できる程度です。なお5級は、日常言語活動において不便がなく、文書(新聞記事、説明文、書簡等)やテレビ・ラジオのニュース、平易な解説等を理解し、自分の意見を述べられる程度。6級は高度な言葉、文書(新聞、雑誌、教養書、